
彼と朝食とダージリン

大沢崇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と朝食とダージリン

【NZコード】

N7272B

【作者名】

大沢 崇

【あらすじ】

ある恋人達の朝の模様です。朝食の支度をする彼が煎ってくれるのは、自分の好きなダージリン。そのダージリンにも大きなこだわりがあるんです。

(前書き)

この2人が異性か同性かの判断は、読者様にお任せします。

広いリビングダイニングに、大きな窓から朝日が射し込んでいる。

寝室の遮光カーテンは開かない為、リビングダイニングに降りて来なければ天候が分からぬ。

知らなくても構わないのだが。

「おはようございます」

彼は朝から機嫌が良い。

早起きの出来ることは尊敬に値する。

「おはよう

彼が差し出すカップを受け取る。

中身は薄いダージリン。

渋い味が苦手なのにアツサムやオレンジペコーは飲まずに断固としてダージリンにこだわる自分に、彼は眉一つしかめずに付き合つてくれている。

「もうすぐ出来ますから待つて下さいね」

今日の朝食はオムレツとコンソメスープとホールスロー。パンは食パンではなくバターロール。

プランターで育てたミニトマトが皿の端に乗っている。

料理の上手い彼は、植物を育てるのも上手い。プランターにはミニトマトの他にバジルやミント、苺やほうれん草が育っている。これから、庭を耕して本格的に家庭菜園を始めるつもりでいるようだ。

彼が楽しいなら、何だって良い。

俗説だが、料理上手は床上上手らしい。

確かにそつかもしねない。

うつかり昨夜の情事を思い出してしまい、赤面する。

それをダージリンが熱いからだと云ひ事にして、彼の背後に忍び寄つた。

「どうしました？」

彼の頬に、唇で触れる。

「いつもしてくれるだろ？」

今日はまだだよ。

「そうでした」

優しく微笑んで、彼は唇にキスてくれた。

「食事の後で甘えても良い?」

「喜んで」

天気のいい日の朝の出来事。

了

(後書き)

某賞に投稿した小説の後口談のつもりで書きました。
良い結果が出る事を期待しています。

… プチトマトとトマト。
どちらが正しいのでしょうか。

今回はミニトマトの方を起用しましたが。

ご意見、お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7272b/>

彼と朝食とダージリン

2011年2月2日14時18分発行